

37	香川県琴平町立琴平中学校 外3校	21～23
----	------------------	-------

## 平成23年度研究開発実施報告書（要約）

### 1 研究開発課題

郷土を愛し、まちづくりに主体的に参画できる子どもを地域と一体となって育てることをめざした研究開発

### 2 研究の概要

小・中学校9年間を通して、発達段階の課題を明確にして、「まちづくり教育」を推進する。実際にまちづくりにかかわり、まちの変容と自己効力感を実感することで、地域社会を担う一員として必要な資質を幅広く養う。

まちづくり科学習を行うために、小学校では、総合的な学習の時間、国語科、社会科、生活科、図画工作科、家庭科を一部削減、中学校では、総合的な学習の時間、特別活動、選択教科、国語科、社会科、理科、美術科、音楽科を一部削減し、新設教科まちづくり科を教育課程に位置付ける。

具体的には、初めの4年間（基礎確立期：小1～小4）を自分と自分の住むまちについて知る時期ととらえ、まちについて調べたり、基礎的な能力を身に付けたりする。次の3年間（自己発見期：小5～中1）を地域と学校が一体となって体験的な学びを進展させる時期ととらえ、自らの視野を広げるまちづくりの実践を推進する。最終の2年間（自律期：中2～中3）はまちづくりに参画する学習を深め、まちづくりに貢献しようとする意欲や態度を育てる。

このまちづくり科の実施を通して、地域へのかかわりの中で、子どもの成長を評価し、その教育効果について提言する。

### 3 研究の目的と仮説等

#### （1）研究仮説

小・中学校を4年－3年－2年に段階区分し、それぞれの発達課題を見据えて、新設教科まちづくり科を9年間通して設定する。そして、小・中の接続と家庭・地域との連携を十分に考慮したまちづくり科実践プログラムの開発・実施・推進を図る。

子どもたちは、こうしたまちづくり学習が、まちの変容につながっていくことを実感し、自己効力感が醸成され、郷土を愛する心や他の人とかかわることの喜びを獲得できる。

そのことで、まちづくりに主体的に参画できる子どもが育つだろう。

#### （2）教育課程の特例

① 小学校第1学年は、年間34時間、第2学年は35時間、第3学年から第6学年までは70時間実施する。そのため、総合的な学習の時間、国語科、社会科、生活科、図画工作科、家庭科を一部削減する。

② 中学校では、全学年年間70時間実施する。そのため、総合的な学習の時間、特別活動、選択教科、国語科、社会科、理科、美術科、音楽科を一部削減する。

#### （3）研究成果の評価方法

##### ① 児童生徒の実態評価

- ・ まちづくり科実践に関する児童生徒への意識調査
- ・ 全国学力・学習状況調査、香川県教育委員会が実施している学習状況調査

##### ② まちづくり科学習についての評価

- ・ 児童生徒、教職員、保護者、地域の人々を対象にしたアンケート
- ・ まちづくり科の授業公開・研究発表会を通しての参会者による評価

##### ③ 研究にかかわる評価

- ・ 児童生徒のまちづくり科の実践状況と自己効力感・コミュニケーション能力等との相関関係の調査
- ・ まちづくり科教育推進協議会によるヒアリングを通じての評価と助言
- ・ まちづくり科教育運営指導委員会による教育活動診断

## 4 研究内容

### (1) 教育課程の内容

#### ① 当該年度の教育課程

当該年度の教育課程は、小・中ともに新設教科「まちづくり科」を実施する。教育課程全体は、別紙の通りである。

#### ② 「まちづくり科」の学習内容

児童生徒の発達の段階を考慮し、小1から中3まで系統的に目標や内容を設定し、評価の観点ごとに評価規準を定めるなど小中連携の視点から小中一貫したカリキュラム編成を行った。また思考力・判断力・表現力をはぐくむために、小・中学校の接続ならびに家庭・地域との連携を十分に考慮した学習の開発、実施、修正を図った。知識、技能の活用を図る学習活動や言語活動を充実させることに留意し、学年間・異校種間交流活動の場を位置付けた。

まちづくり科は、まちの基盤づくりの視点でもある「人と人とのふれあい」、まちづくりの活性化を図るための視点である「交流とにぎわい」、まちの個性を浮き彫りにする視点である「伝統・文化・自然」の3領域から設定している。その内容は次の表の通りである。

まちづくり科の目標及び各段階、領域別のねらいと主な活動内容

【目標】 郷土について知り、公共のために役立つ活動やまちづくりの実践等、積極的に主体的なかかわりを通して、郷土を愛する心や社会の形成に寄与する心構えを育て、郷土をよりよくしていこうとまちづくりに参画する態度を育成する。										
期	(基礎確立期) 地域と家族や自分について知り、友だちとともに地域や家族について調べ、郷土の福祉や観光についての基礎的な知識を身に付けるとともに、まちづくりの基礎となる身近な体験をする。		(自己発見期) 郷土についてより深く知り、まちづくり科の実践を行う中で、自らの生き方を発見し、まちづくりに参画しようとする態度を育てる。		(自律期) 自己を見つめ、将来のあるべき姿を模索するとともに、郷土を愛し、その発展に貢献しようとする心や態度を育て、まちづくりに主体的に参画する。		【めざす子ども像】 郷土を愛する心や他の人とかがわることの喜びを獲得し、まちづくりに主体的に参画できる子ども			
対象	学校の近く		校区		琴平町内外					
参画	愛着		共感		参加			提案		
学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	最終目標(内容)
人と人とのふれあい	○身近な人々 ・家族 ・幼稚園児 ・近所の人 ・お年寄り、婦人会 ・商店街の人 ・みまもりネットの人 ・子どもSOSの人	○公共施設 ・デイサービス ・ちよつとこ場、ACTことひら ・農政センター ・給食センター ○安全を守る人々 ・子ども110番、子どもSOS ・地域パトロール隊 ・消防団	○人にやさしいまちづくり(障害者、高齢者) ・バリアフリー ・車椅子・アイマスク体験 ・福祉施設訪問 ・障人会・老人会との交流 ※○子ども議会	○人にやさしいまちづくり ・シャローム訪問 ・琴平町のバリアマップ ・シニア・車椅子体験 ・人権劇への取り組み	○だれもが住みやすいまちづくり ・校内弁論大会への取り組み ・人権劇への取り組み ・人権劇への招待	だれもが大切にされ、幸せで豊かに生活できるまちづくりをめざして、一人ひとりが豊かな人権感覚や的確な思考力、判断力を身に付け、人とのふれあいを大切にしながら課題解決のために積極的に行動しようとする意欲や態度を育てる。				
交流とにぎわい	○地域のお祭り ・氏子祭り ・祭りにかかわる人々の願い	○校区のまち自慢 ・昔からの商店(醤油、酒、履き物等) ・商店街 ・農作物 ○お祭り ・お十日 ・祭りにかかわる人々の願い ○わかしのこんぴら参り ・五街道 電車	○こんぴら歌舞伎大芝居によるまちおこし ・歌舞伎を支えた人々 ○琴平町のまちおこし ・特産物にんく ・醤油、味噌、酒 ・観光の土産 ※(交)まちづくりミーティング	○琴平町の全体像 ・3校区の自慢	○琴平町の仕事体験 ・町内の方からの学び ・2日間の体験学習 ・町の人々との交流 ・職場フリー	○まちづくりへの参画 ・町行政の方からの学び ・子ども議会 ・広報活動 ことひら「ベストショット」	まち探検やまちの人々の仕事調べ・仕事体験や観光調べを通して郷土の素晴らしさや自慢を見つけ、開かれた住みよいまちづくりを提案したり、まちづくりに参画したりしようとする意欲や態度を育てる。			
伝統・文化・自然	○こんぴら船々、榎井小唄 ・歌、踊り ○身近なまちの自慢 ・学校の近くの古いもの ・好きな場所 ・自然	○地域に残る古いもの ・こんぴらさん ・燈籠、丁石、鳥居 ・吞象楼、高燈籠 ・長谷川佐太郎家跡 ○校区の自然(金倉川、出水)	○金丸座の歴史と復活 ○まちにある日本文化 ・書院 ・茶道、華道 ○まちの自然 ・象頭山 ・金倉川	○琴平町の自然 ○こんぴら歌舞伎大芝居 I	○こんぴら歌舞伎大芝居 II ・芸術面 ・古典文学	まちに古くから伝わる伝統文化と自然環境についての調べ学習や体験的学習を通して先人の努力を知り、郷土に愛着と誇りをもち、それを守り受け継ぎ発展させていこうとする心や態度を育てる。				

(交) 小・中の交流活動 ※ 3領域に関わる交流活動

#### ③ 評価方法

評価については、対象を児童・生徒、教員、保護者、地域の人として、意識調査・実態調査を行う。そして、その経年比較を行う。また、複数回データを取り、変容を把握したり、複数の要素の相関関係をとったり、分析的な評価ができるようにする。また、数量的なデータだけでなく、児童・生徒のまちづくりの実践や態度の変容を教員以外の人から評価してもらう場を設定する。

さらに、町民向けのリーフレット作成や研究大会を開催することで、より多くの町民に評価をいただく場を設ける。

## (2) 研究の経過

<p>第一 年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究開発の概要 まちづくり科教育のねらいと方法を明確にしながら、研究組織づくりや内容構成づくり</li> <li>○ まちづくり科教育推進協議会の設置</li> <li>○ まちづくり科学習プログラム試案編成</li> <li>○ まちづくり科カリキュラム編成と試行</li> <li>○ まちづくり科学習シートとこんぴら検定の試案作成と実施</li> </ul>
<p>第二 年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究体制の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各小中学校において、まちづくり科を中心にすえて、校内現職教育に研究組織づくりとテーマを設定</li> <li>・ 町内小中学校で、研究部会（カリキュラム編成、授業・評価研究、体験・表現）・統計調査部会（実態調査、意識調査）・広報部会（資料づくり、地域発信、全国発信、学校間発信）の3部会を核として研究推進</li> <li>・ まちづくり科校長等連絡会の実施により、研究上の調整と共有化（年間17回）</li> </ul> </li> <li>○ まちづくり科教育運営指導委員会の開催（年間3回）</li> <li>○ 研究推進委員会（教頭・研究主任・現教主任）（年間12回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各校でまちづくり科の授業を実践し、公開し、授業の在り方や課題を明確化</li> <li>・ 評価項目の作成</li> </ul> </li> <li>○ まちづくり科の授業実践 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どものまちづくりの実践につながる教材の開発</li> <li>・ 学年ごとに全単元の学習シートを作成</li> <li>・ 言語活動の充実を図るための教材開発と指導法の改善</li> <li>・ 地域人材活用方法の開発と交流の在り方の工夫</li> </ul> </li> <li>○ 小・中の接続と交流，地域人材の活用を考慮したまちづくり実践</li> <li>○ 教育効果の検討と評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒，教員，保護者，地域の方々を対象にした「まちづくり教育」やまちへの関心等についての意識調査</li> </ul> </li> </ul>
<p>第三 年次</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究体制の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究部会・統計調査部会・広報部会の3部会を核として研究推進</li> <li>・ まちづくり科校長等連絡会の実施により、研究上の調整と共有化（年間8回）</li> </ul> </li> <li>○ まちづくり科教育運営指導委員会の開催（年間3回）</li> <li>○ 研究推進委員会（教頭・研究主任・現教主任）（年間15回） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各校の授業実践を基に研究の方向性を確認</li> <li>・ 小・中の一貫性を考慮した教育課程の実施・評価・改善</li> <li>・ 研究のまとめ</li> </ul> </li> <li>○ まちづくり科の授業実践の見直し <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年ごとに作成した学習シートの修正</li> <li>・ まちづくり科の授業公開・活動公開</li> </ul> </li> <li>○ 小・中の接続と交流，地域人材の活用を考慮したまちづくり実践</li> <li>○ 教育効果の検討と評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒，教師，保護者を対象にした意識調査とその経年比較</li> </ul> </li> <li>○ まちづくり科研究発表会の実施（11月18日）</li> <li>○ 研究のまとめとして町民向け広報「研究リーフレット」作成</li> </ul>

**(3) 評価に関する取組**

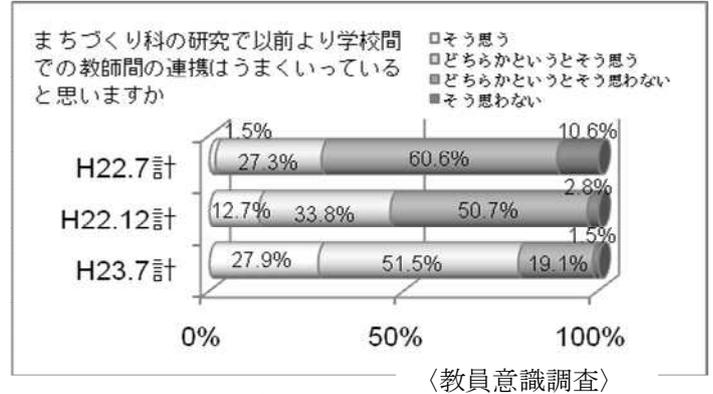
<p>第一 年 次</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力・学習状況調査，香川県教育委員会が実施している学習状況調査（4月）</li> <li>・ まちづくりの実践に関する児童生徒への意識調査 7月上旬 琴平町内小中学生 763名      12月上旬 琴平町内小中学生 732名</li> </ul> </li> <li>○ まちづくり科学習についての評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒・保護者全員を対象にした「まちづくり教育」に対するアンケート 6月下旬 琴平町内小中学生 763名      11月下旬 琴平町内小中学生 732名 保護者等 518名</li> </ul> </li> <li>○ 研究にかかわる評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒のまちづくり実践の取組状況と自己効力感・コミュニケーション能力等との相関関係の調査（2月）</li> <li>・ まちづくり科教育推進協議会によるヒアリングを通じての評価と助言（年2回：10月 2月）</li> <li>・ まちづくり科教育運営指導委員会による教育活動診断（年3回：5月 10月 1月）</li> </ul> </li> </ul>
<p>第二 年 次</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力・学習状況調査，香川県教育委員会が実施している学習状況調査（4月）</li> <li>・ まちづくり実践に関する児童生徒への意識調査 6月下旬 琴平町内小中学生 745名      11月下旬 琴平町内小中学生 747名</li> </ul> </li> <li>○ まちづくり科学習についての評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒・教職員・保護者、地域の人々を対象にした「まちづくり教育」に対する変容を中心にしたアンケート 6月下旬 琴平町内小中学生 745名 教職員 68名 11月下旬 琴平町内小中学生 747名 教職員 73名 保護者等 518名</li> </ul> </li> <li>○ 研究にかかわる評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒のまちづくり実践の取組状況と自己効力感・コミュニケーション能力等との相関関係の調査（1 1月）</li> <li>・ まちづくり科教育推進協議会によるヒアリングを通じて評価と助言（年2回：10月 1月）</li> <li>・ まちづくり科教育運営指導委員会による教育活動診断（年3回：5月 9月 1月）</li> </ul> </li> </ul>
<p>第三 年 次</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 児童生徒の実態評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちづくり科実践に関する子どもへの意識調査 6月下旬 琴平町内小中学生 705名      教職員 69名</li> <li>・ 香川県教育委員会が実施している学習状況調査（1 1月）</li> </ul> </li> <li>○ まちづくり科学習についての評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒，教職員，保護者、地域の人々を対象にしたまちづくり科学習に対する変容を中心にしたアンケート 6月下旬 琴平町内小中学生 705名 教職員 69名 保護者等 476名</li> <li>・ 授業公開・研究発表会を通して参会者による評価（1 1月）</li> </ul> </li> <li>○ 研究にかかわる評価           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童生徒のまちづくり科の実践状況と自己効力感・コミュニケーション能力等との相関関係の調査（9月）</li> <li>・ まちづくり科教育推進協議会によるヒアリングを通じての評価と助言（年2回：9月 2月）</li> <li>・ まちづくり科教育運営指導委員会による教育活動診断（年3回：6月 8月 1月）</li> <li>・ 町長・町議会議員によるまちづくり科の評価（2月）</li> </ul> </li> </ul>

## 5 研究開発の成果

### (1) 実施による効果

#### ① 研究体制の構築

- 町内小中学校合同で、研究組織を3部会（研究部会、統計・調査部会、広報部会）に編成した。研究部会では研究開始当初よりカリキュラム編成や授業・評価研究、体験・表現活動の在り方、統計・調査部会では実態調査や意識調査の実施・分析、広報部会では資料づくりや地域や全国への発信、学校間での情報の共有等について町内全教員が分担して研究推進を行った。
- 平成22年度から各校の教頭と研究主任を中心に研究推進委員会を立ち上げ、研究の推進や調整、共有化を行い、リーダーシップを発揮できるようにした。研究推進委員会は課題が生じた時など必要に応じて何度も開催し、研究の方向性、カリキュラム内容の調整、学習指導の在り方について見直しを進めた。
- まちづくり科教育運営指導委員会やまちづくり科教育推進協議会を組織し、学識経験者や地域の人々など様々な立場の方から、研究の評価・助言をいただいた。



#### ② 児童生徒への効果

##### ア まちやまちづくりに対する興味・関心及び愛着・共感

###### 事例 一小1 「お世話になっている人と交流しようー子どもかけこみ110番ってなあにー」

- 1年生では家族や地域の一員として自分たちのできることをするようめざしている。小学校で一番小さい1年生を守ってくれる人に目を向け、自分たちの住んでいる周りに「子どもかけこみ110番」に登録している事業所や家庭について学習を行った。
- 授業の中で実際に登録している人からどんな気持ちで登録したのか、自分たちをどういう気持ちで見守ってくれているのかを学習する。そのことによって自分たちがどれだけ地域の方から優しく見守られているのかを感じ取れた。
- 授業前はお世話になっている人を家族とした児童が多かったが、授業後は榎井のまちの人にお世話になっていると答える児童の割合が増えた。授業後「子どもかけこみ110番」の人と答えた児童が増え、児童のまちを見る目の広がりを感じ、自分たちの住んでいる地域への関心が高まった。
- 単元終了後、児童は自分の家の周りにある「子どもかけこみ110番」に登録している家に新しい看板を持っていき「これからもお願いします」と声をかけ、地域の方とのコミュニケーションを図っている。

###### 事例 一小3 「縁の下の力持ち！こんぴらにんにく」

- 全国有数の産地であるところから、にんにくを教材化した単元では、植え付け・収穫などの農作業や農家の方へのインタビュー、琴平特産のガリックオイルを使った調理実習、障害のある人が町おこしの一環として、にんにくを加工している福祉目的の作業所『ねむ工房』との交流など多様な体験活動を行った。
- こうした体験活動を「まとめる、疑問を見つける、みんなで話し合う、体験を通して解決する、新たな疑問を見出す」というようにつないでいった。
- 子どもたちは、1つの疑問がさらなる疑問へとつながり、



〈にんにくの収穫〉

単元を通して意欲的に学ぶことができた。

#### 事例 一小5 「子ども木戸芸者の取り組み」

・ 昨年度、まちづくり科の活動を知った商工会の方から毎年4月に行われている四国金毘羅歌舞伎大芝居の時に芝居小屋の前で歌舞伎の口上を言う「木戸芸者」を小学生がやってみないかという提案をいただいた。5年生は3小学校とも町の計らいで毎年歌舞伎教室として観劇をさせていただいている。まちづくり科では四国金毘羅歌舞伎大芝居について「交流とにぎわい」の領域で学習をさせてきている。



〈商工会の方のお話〉

そこで、3小学校ともこの「木戸芸者」に挑戦をした。

- ・ 児童は歌舞伎についてそれを運営するのにたくさんのボランティアの方がかわり、町の行政をあげてバックアップしていることを勉強してきている。また、自分たちも実際にボランティアができるかどうか授業で考えた。そこで「木戸芸者」の練習に真剣に取り組み、今年度の4月には1つの小学校は役者のお練りの時『瓦版屋』として、かわら版を配りに挑戦し、他の2つの小学校が木戸芸者やボランティアに挑戦をした。
- ・ 木戸芸者の練習を生かして、学習発表会、活動発表会の折には自分たちで原稿を考え各学年の発表内容を木戸芸者風に発表したり、合いの手を入れて発表を盛り上げたりするなど、関心意欲の高まりを感じた。
- ・ 木戸芸者に取り組むことでずいぶん自信が付き、自分の力が伸びたと感じている児童が増え、自己効力感が高まった。また、活動を終えての作文ほどの児童もしっかりした感想を書くことができるなど、表現力の高まりを感じた。

#### イ まちへの参画・貢献

##### 事例 一小4 「呑象楼を<sup>どんぞうろう</sup>残そう」

・ 幕末に活躍した郷土の偉人である日柳<sup>くさなぎえんせき</sup>燕石の住まいである呑象楼が小学校の敷地内に移築されて50年以上がたつ。地域では燕石の偉功を郷土に語り継ごうと彼が作った漢詩を詩吟



〈掛け軸を町長さんに贈呈〉

として吟ずる燕石会がある。4年生は「校区の自慢をアピールしよう」と校区の自慢になる古いものを見付け、写真展を開く活動を行った。その中で呑象楼に目が向き、この燕石会の方と交流を行った。日柳燕石のことや、古くなった呑象楼を修復しようとしている燕石会の活動を知った。そこで、自分たちができることを考え3学期の参観日の折りに全校生や保護者、地域の人に呼びかけ募金活動を行った。集まったお金で呑象楼の抜け穴を隠す掛け軸を燕石会の方のお世話で町に寄贈をした。

- ・ 4年生は燕石会の方から簡単な詩吟を教してもらい練習を重ねて、町の文化祭や敬老会でその発表を行った。こうした町のイベントに参加することでまちの活性化につながっていると考えられる。

##### 事例 一中3 「まちづくりへの参画」

- ・ 中学校では、子ども議会の提言作りに向けて、琴平町の行政や財政について、役場の方に質問する授業を行った。
- ・ 事前に質問を考える活動では、町の現状や課題に真剣に向き合う生徒の姿が見られた。
- ・ 質問内容が、財政や観光、福祉、産業についてなど、多岐に渡ったため、役場から各課課長さん7名が来られ、生徒の熱意が行政の方に届いた結果となった。

- ・ 当日の授業では、役場の方の説明を熱心に聞いてメモをとったり、さらに質問したりする意欲的な生徒も見られた。
- ・ 授業後、役場の方からは「まちのことをよく勉強している」「中学生がここまでまちのことを真剣に考えていて驚いた」という声が聞かれた。
- ・ この授業で得た情報をもとに、多くの生徒がまちの一員としての自覚をもって提言作りに取り組むことができた。



〈各課の課長さんをゲストティチャーに〉

#### 事例 一小4 ガイドウォーク「みんなに伝えよう！こんぴら参りと昔の人の思い」

- ・ こんぴら参りについて学習を行ったあと、昔から残る街道や文化財の大切さを大勢の人に伝えたいという子どもの願いから、ガイドウォークを行った。
- ・ ガイドウォークに向けて、学習内容や絵、資料を使ってまとめたボードや発表原稿を作成し、ガイドを練り上げた。
- ・ 目的に合った正確な情報を伝えているか、相手に分かりやすい表現となっているか、表情や言葉遣い、マナーは適切かというような評価の視点を子どもがもつことができた。
- ・ ガイドウォークでは、大勢の観光客が子どもたちのガイドに足をとめ、聞き入っていた。自作の歌もあり、楽しい時間を過ごすことができたという声を数多くいただいた。  
また、このような活動を通して、子どもたちのコミュニケーション力の伸びを感じた。



〈表参道でガイドウォーク〉

#### ウ 他者とかかわろうとする意欲とコミュニケーション能力

##### 事例 一小5・6、中1 「まちづくりミーティング」

- ・ まちづくり科において、小学校では、学級担任が中心となって各校区内の視点で学習を進め、中学校では、学年団や教科担任制を生かし、まち全体を視野に入れた学習を展開している。学校種間の違いを見据えたうえで、それぞれの学びをつなげる学習が必要となる。そこで、自己発見期に「交流活動」を位置付け、それぞれで学習してきたことを共有したり、フィードバックしたりする場を設けた。
- ・ 交流活動では、小・中教師間の連携とそれぞれの学校のカリキュラムへの共通理解を深めることができた。小学5・6年生と中学1年生が校区ごとに集い、「自分たちのまちをどのようなまちにしたいか」について考える「まちづくりミーティング」を行った。



〈中学生と小学生との話し合い〉

- ・ この学習を通して、中学生は「小学生もなかなかいいことを考えている」「いろいろな面についてしっかりとした意見をもっている」と感じ、小学生も「いろいろな意見が出たのにうまく整理している」「中学生のリーダーシップはすごい」と感じ互いに相手を認め合った話し合い活動が展開できた。
- ・ 交流活動の実施にあたっては、小中の教師が事前に打ち合わせする機会を何度も設け、単元計画からグループ編成、日課の調整や移動手手段の手配など、限られた時間を駆使して共通理解に努めた。実践を通して、小・中教師間の連携を図ることの大切さを一層感じた。

## エ 他教科への波及効果

運営指導委員から指導助言を得ながらまちづくり科と各教科の関連を整理し実践を進めた。そのことにより、教師集団において、まちづくり科の学習が他の教科に生きているという認識の広がりが見られた。

児童生徒の学力状況としては、平成21・22年度実施の香川県学習状況調査（4月実施）の結果から、県全体の状況との比較において、国語科の「書く能力」及び「関心・意欲・態度」の観点で向上した。これは、まちづくり科において書く機会を増やし、多様な表現方法を身に付けることで児童生徒の書くことへの抵抗感が軽減したことが一因であると考えられる。

中学校では、平成22年度の全国学力・学習状況調査で見ると、国語B（活用）の平均正答率では、評価の観点における「話す・聞く能力」で、全国平均を2.1ポイント、「書く能力」でも、全国平均より、1.2ポイント、上回っている。言語活動、表現活動に好影響がもたらされたと考えられる。

また、平成22年度の全国学力・学習状況調査での生徒質問紙調査の、「新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか」については、「関心がある・どちらかと言えば関心がある」は全国平均より4ポイント上回り、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目では、「当てはまる」が全国平均より4.9ポイント上回っている。調査学年の特徴もあるが、地域行事の参加については21年度もポイントは高く出ている。

	関心意欲 態度	話す・聞く	書く
平成21年度	-5.7	-3.4	-4.1
平成22年度	+6.1	+4.9	-1.9

（香川県学習状況調査国語科観点別県平均との差）  
町内3校の平均

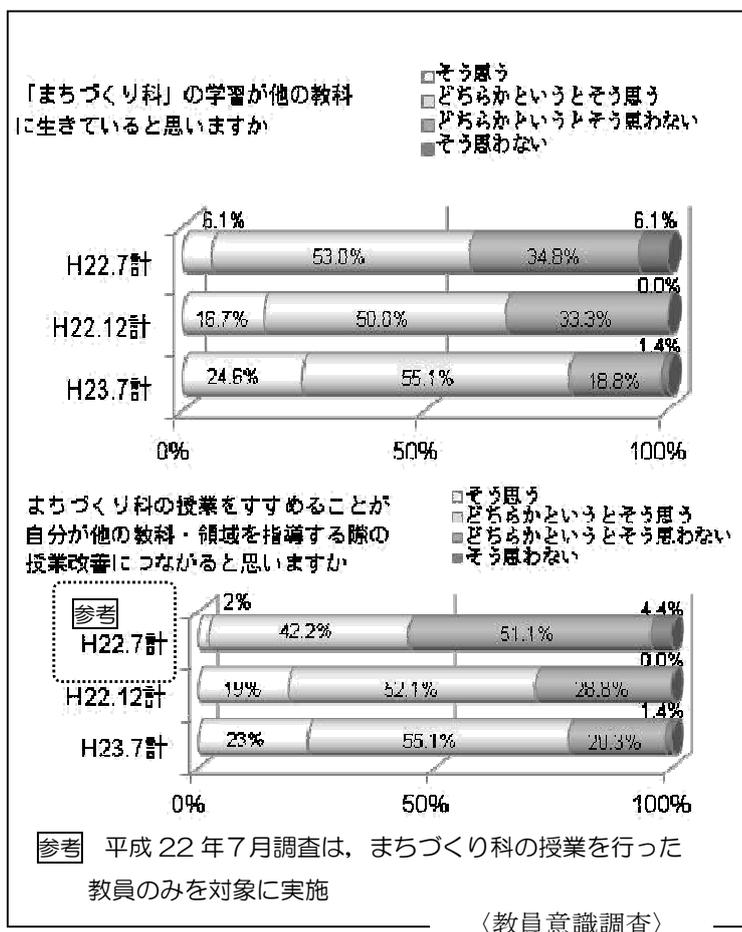
	話す・聞く	書く
全国平均との差(%)	+2.1	+1.2

（平成22年度全国学力・学習調査結果）  
（国語B）

## ③ 教師への効果

まちづくり科の取り組みが他の教科の授業改善や学校間連携に効果があることがうかがえる。これは、まちづくり科では、フィールド調査、関係機関や地域の方から聞き取り調査等を行うとともに、実際の学習では校外での活動や地域への働きかけが必要であることから、このような教科の教材研究を共同で行うことで、それぞれの教員が自分の授業を振り返ることにつながったと考えられる。

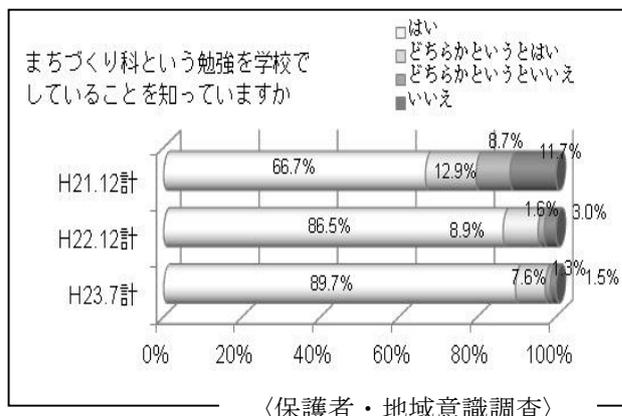
地域とのつながりの深まりを実感している教員の割合が8割を超えており、小中連携や地域との連携に対する教師の意識向上につながっている。



#### ④ 保護者・地域への効果

##### ア まちづくり科の認知度について

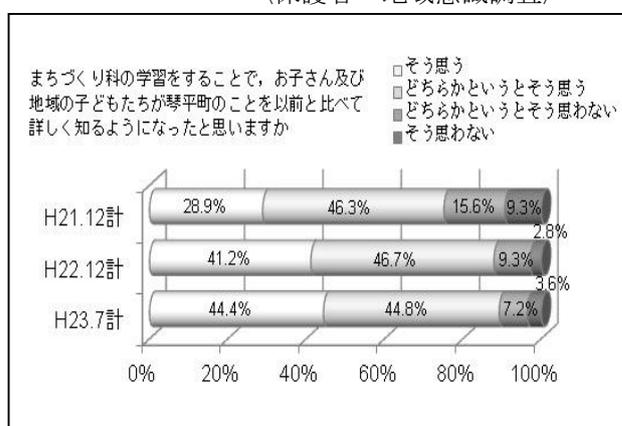
保護者・地域意識調査では、まちづくり科について知っているかという問いに対して「はい」と回答した保護者等の割合が増加し、本年度ではほぼ9割となっていることから、保護者や地域にまちづくり科の取組が広く認知されていることがうかがえる。これは、各学校とも学校だよりや学級だよりで、その取組を紹介するとともに、町が発行する毎月の広報誌にも掲載スペースをいただき、各校が持ち回りで児童生徒の活動の様子を紹介していることによると考えられる。そして、まちづくり科が保護者や地域等に認知されていることで、教員による連絡調整や協力体制づくりが円滑なものとなっている。



##### イ まちづくり科の学習について

保護者・地域意識調査では、まちづくり科の取組により児童生徒が琴平町のことを詳しく知るようになったかについて「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した保護者等の割合が第1年次と比較すると14ポイント増加している。

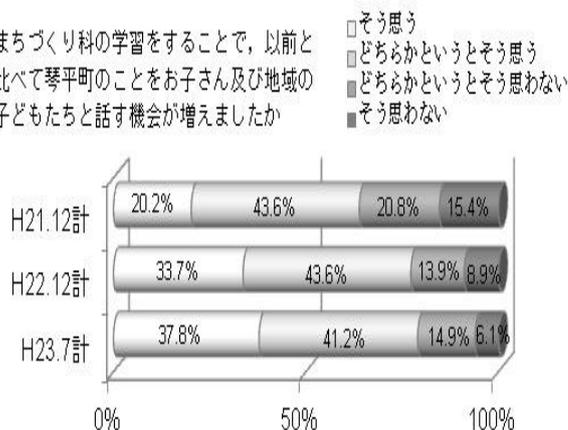
また、まちづくり科が琴平町を好きな子どもを育てる上で有意義な学習となっているかについて「そう思う」「どちらかというと思う」と回答した保護者等の割合が9割程度になっている。このことから、児童生徒にまちやまちづくりに対する興味・関心及び愛着・共感を育む学習として、保護者等が肯定的にとらえていることがうかがえる。



##### ウ 家庭での状況について

保護者・地域意識調査及び児童生徒意識調査から、まちづくり科の学習は、家庭で保護者と児童生徒の間で、琴平町やまちづくりに関する話題を提供しており、話す機会が増加していることがうかがわれる。また、保護者・地域意識調査の自由記述では児童生徒への期待や地域に住む大人としてまちづくりを学んでいる姿が感じられる。

まちづくり科の学習をすることで、以前と比べて琴平町のことをお子さん及び地域の子どもたちと話す機会が増えましたか



まちづくり科の学習をすることで、以前と比べて琴平町のことをお家の人と話す機会が増えましたか

